

図書館情報大学

当大学は、筑波研究学園都市（このたび行政区画名が「つくば市」となりました）の一角にあります。名前が一見、文系の大学に見えます。実際、受験雑誌で文系に入られたこともあり、卒業生の多くは司書資格を取得しますが、当大学のパンフにも「科学技術の方法論にもとづいて図書館情報学を確立するとともに…」とあって、大学の分類としては科学技術系に属します。

図書館情報大学は昭和54年10月に開学した国立大学で4年制学部と2年の修士課程をもちます。

本来、図書館学は、図書や文献など図書情報の蓄積・分類・検索・提供の方法を研究する歴史の古い学問ですが、図書館情報学は、図書情報に加えて、図形・映像・音声・企業ノウハウなど、さまざまな形の知識情報を、情報科学・情報工学の技法によって収集・蓄積・運用することを研究する学問です。「確立」はまだまだこれからです。

当大学の先生方は、図書館学、社会学、歴史学、言語学、自然科学、工学など、さまざまな分野出身の方々に構成されていますが、ここでは本誌読者の関心に近いと思われる研究について記します。

山本教授 ④英語のメッセージから日本語および韓国語への自動翻訳。これには韓国からの留学生の崔さんが大きく貢献しています。（ちなみに、当大学は外国人留学生を多く受入れており、現在も中国、韓国、タイ、スリランカ、カナダ、アメリカなどからきています。）⑤法帖文字の形状認知。文字芸術の伝統ある美意識が、現代人の目にどう映るかを形量的に評価した、文字デザイン

の基礎資料にすることを狙っています。

平賀助手 人間の感覚生理の情報処理メカニズム。人間の情報処理は人工知能的なアプローチが多く行なわれていますが、この場合はより基本的な生理的レベルに注目しています。たとえば人がメロディーを聞くとき、記憶している曲と似ていることを判断したり、最初の数フレーズだけで長調か短調かを当てたりすることは、音楽の記憶がテープレコーダのようでなく、構造化されてしまっているのではないかという観点から、モデル化し、シミュレーションで確認しようとしています。

伊藤助教授 人工知能の立場からの自動分類の研究。人がリンゴを見てナシと区別する働きは、イメージ処理と言語処理の2つのプロセスが並行して、初めてこれが可能になると考えて、その観点からの学習システムが追求されています。

増永教授 「マルチメディア・データベース」の提唱。技術的なノウハウのデータベース化のために、文字・映像・図形・音声などの多角的な情報が互いに有機的に結びついたデータベースに構成することが意図されています。

田畑教授 読書相談エキスパートシステムの開発。児童図書館での読書相談を支援するのが狙いです。

さて私、**徳山五郎**は図書館について楽しく勉強しています。（徳山五郎）

参考文献

鹿部 司：「キャンパス情報 図書館情報大学」Quark（講談社）1987年1月号、p.131

